

次に「花と緑」について書こう。大連といえばアカシアの花が有名である。毎年5月下旬に市内各所でアカシア祭りが開かれる。白い花とうす紅色の二種類を見るが、その時期に公園や街路を歩くと甘い匂いがほのかにただよって来て、とてもいいものである。アカシアといえば清岡卓行の「アカシアの大連」を思い出す。この小説は昭和44年に芥川賞を受賞しているが、今でも書店で文庫本で売っているので一読をおすすめする。

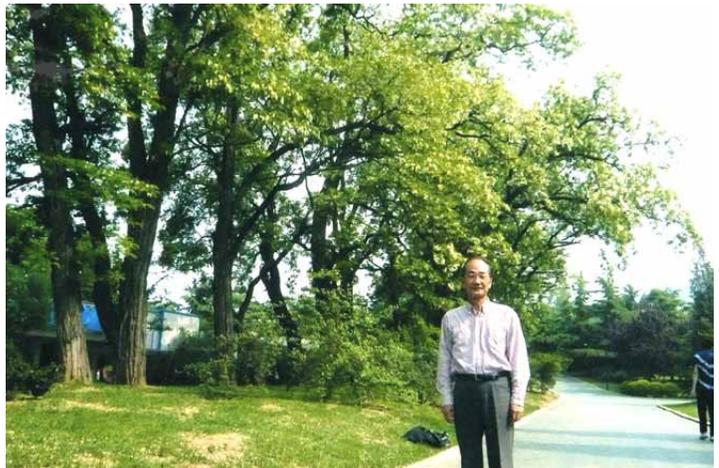
又、これは中国各地で見られるものであるが、柳の種子であり中国の風物詩の「柳絮(りゅうじょ)」を紹介しよう。樹木の形は日本の柳と全く変わらないが、中国の柳は春になると木々に白い綿毛につつまれた種子をつけるのである。風に吹かれると空中を舞い、目や口にも入ってくる。ボタン雪がいっぱいふりかかってくる感じである。中国に行けばこの時期に見られるのは知っていたが、初めてみた時はオーバーかも知れないが感動した。これが漢詩にも詠われる「柳絮」かと。中国人は毎年見ている上に、目や口にも入ってくるのでうとうとしらしいが、私は毎年でもこれを見てみたい。2008年の手帳をみると5月8日に柳絮が飛びはじめたとあった。

大連の春は迎春花(げいしゅんか)というレンギョウの一種と思われる黄色い小さな花が咲く時から始まる。3月中旬ころから咲きはじめるが、通勤途上に咲き乱れるこの花を見るのがとても楽しみであった。「迎春花」は正式の花の名前かどうかよくわからないが、いい名前をつけたものである。

現場での労働は重いものを運んだり溶接の火花が飛び交う中での重労働であり一日中本当に大変である。少しでも従業員の心がやすまればと会社の小さな花壇に枝ぶりのいい柿の木を植え周りに山里紅という花の咲く木の苗をいくつか植えた。勿論迎春花も買ってきて会社の入口付近に植えた。これらは今春も咲いてくれたであろうか。いつか是非みてみたい。

桜については、名所といわれる所もあるが小規模で日本のそれとは比べものにならない。やはり桜は日本が世界一である。

大連市民の自慢はいくつかあるが、海のそばにある星海広場はすばらしい。中国々内では北京の天安門広場とこの星海広場が二大広場だと中国人の友人が言っていたがその通りと思う。上空から見ると大きな楕円形をしている。広大でかつ美しく端から端まで歩くと



運動公園(大連市内)のアカシア並木

かなりかかる。ここでいろいろな行事が行われる。

8月に2週間近く開催される「ビール祭り」は市民が待ち望んでいるお祭りである。世界各国のビール会社がコーナーを設け、その中にステージをつくり音楽の演奏などもし、それぞれが趣向を凝らして面白い。入場券を買って入るがアルコールに弱い私は雰囲気だけで酔ったような気持だった。連日ものすごい人出で熱気に包まれ、さすがの広大な広場もせまく思えるほどだった。広場の中央には古代宮殿や陵墓の前に立てたという大きな真白い石柱が空を突きあげるように立っている。これは華表(ファービャオという)といい、柱のまわりには竜などの彫刻がほどこされ、中国らしさを醸し出している。友人の話ではこの高さは1997年の香港返還を記念して19.97mあるとのこと。何でも北京にある一番高い華表より高いというので中央政府からいちゃもんがついたというが真偽のほどはさだかではない。

もう一つ書いておきたいことがある。大連には、というより東北三省には山東省出身だという人が多いのである。「中国全省を読む」(莫邦富著)という本には次のように書かれている。——山東省は昔から豊かな省のイメージがあまりなかった。農民は貧しく干ばつ・水害が多い故郷を離れ、東北と呼ばれる黒龍江省・吉林省・遼寧省に移住して新天地を求めるといふ伝統がある。この国内移民現象は、国民の移住を厳しく制限した文化大革命時代でも中断したことがなく、改革・開放がすすみ、生活水準の向上がみられるようになった1980年代までつづいた。——とある。

大連日通にも「親の代にとか、おじいちゃんの代に大連に移住した」という人が多い。彼らはルーツの山東省を誇りにしている。山東省には中国一のもの、い

や世界一とも言えるものが三つあるというのである。何かと聞くと「一山一川一聖人」という。一山とは泰山でご存知の方が多いと思うが中国一の山である。一川とは黄河である。一聖人は孔子である。なるほどその時思った。孔子は文化大革命のとき否定されたが、やはり世界の偉人であり見直されている。どこの国の人でも自分の生まれた国、自分の故郷は大切に、誇りをもつものである。日本は残念ながら一部の人は、国旗や国歌に対し否定的な考えをもっているが、なぜもっと素直な心で誇りに思わないのであろうかと思う。

まだまだ大連市について書きたいことは山ほどあるが、そろそろまとめに入りたい。これまで書いたように、

5千年（私が4千年くらいではないかと言うと、中国人の多くは5千年だと言う）の歴史という中国にあって大連はたかだか100有余年の歴史しかないが、とにかく魅力ある都市である。100年前の大連と現代の大連がミックスされながらさらに未来に向かって前進している。大連にいる中国人が「この街は空気と水と緑がとてもよい。黒龍江省や吉林省とくらべるとあまり寒くなく生活しやすい」という。大連市は中国人が一度は住んでみたい都市の一番とも二番ともいわれるようだ。

全面開放された旅順地区、そして未来に向かって発展しつづける大連を今後とも毎年訪ねるつもりでいる。